

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：

医学部医学科

学域名：

医歯薬学域(医)

部局長名：

和田 淳

目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 医学教育モデルコアカリキュラムや医学部医学科3ポリシーに基づいて、「重要科目に埋め込まれたパフォーマンス評価」(PEPA, Pivotal Embedded Performance Assessment)や「Okadai-EPA」による診療参加型臨床実習の評価を推進する。	(2-1) (2-2)	1. .PEPAについては、全カリキュラムの中からパフォーマンス評価の対象となる重要科目を抽出して系列化を行うとともに、統一された臨床参加型臨床実習評価表(基本・選択制)における重要科目の評価方法の各項目と医学科ディグリーポリシーとの紐付け作業を行なった。またOkadai-EPAについては、令和5年度から実施しているが、0回・0/49医行為(令和5年度)、1319回・38/49医行為(令和6年度)、3159回・40/49医行為(令和7年度)と順調に利用拡充が図られている。 2. 医学科におけるオンデマンド授業の推進(全講義科目を対象に3～5割を目標)やそれに伴う履修規定の変更、及びOSCE実施日程の変更を、密な連携により実現した。 3. 医療系教員11名(医学科3名、保健学科3名、歯学部2名、薬学部3名)が集中講義「チーム医療演習」を開講され、医歯薬保の3～5年生計290名(医学科4年生115名、保健学科看護学専攻3・4年生65名、保健学科検査技術科学専攻3・4年生37名、保健学科放射線技術科専攻3年生8名、歯学部5・6年生48名、薬学部3年生17名)が受講し、医療系学部における多職種連携教育の推進を図った。 4. 医学科教員を中心に令和7年度全学共通科目・全学交流科目・教養教育科目(知的理解)「医療におけるDXの現状と展望」(受講生72名)を開講した。
2. 「医学科企画室」「医学科IR室」「医療教育センター」「卒後臨床研修センター」が連携をとり、関連委員会へ提案や情報提供を行う。	(2-1) (2-2)	
3. 医療系の多様な学生(医学科、保健学科、歯学部、薬学部)が学びを通じて成長するための教育プログラムの開発・実施に取り組む。	(2-1) (2-2)	
4. 医学部教育において、AIの社会ニーズを先取りした内容・活動へと変化させる。	(11-2)	
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 地域医療貢献事業:文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」を軸として、地域医療へのAI活用など地域のニーズを踏まえた地域医療人材育成のための新たなプログラムを開発する。	(6-1) (10-2) (10-3)	1. 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業(山里海医学共育プロジェクト)」を軸に、岡山・島根・香川・鳥取の4大学で令和6年9月に「臨床実習教育の協力に関する協定」を締結し、在籍大学外での実習を正課化した。多地域共創型医療実習は令和5年度(5年次15名・6年次83名)から令和6年度(5年次130名・6年次105名)へ拡大した。正課カリキュラムに加えて、毎年夏に救急・災害医療や感染症が学べる「とりだい夏プログラム」を開講し、段階的・反復的に学べる場を提供した。毎年フィールドワークを開催し、令和7年度は高知大学との合同スタディツアーに47名が参加した。その他、災害支援の国際基準の研修を実施し、学生のほか、中学生、NPO職員、一般社団法人職員、自治体職員が参加し大学の枠を超えた学習機会を提供した。さらに、認知症VR教材(全5本)やオンデマンド教材を整備し、認知症VR教材を活用した早期体験実習(1年生108名)では高い満足度(7段階評価6.8)を確認した。また、高校生や家族向けに高校生向けに4大学合同で地域枠・地域医療合同説明会を開催(YouTubeLive配信)を開催し、地域医療に関する総説的な説明、地域枠学生や卒業医師のスピーチ動画を公開した。10割が「参考になった」または「大変参考になった」と回答した。上記のように地域ニーズを踏まえた地域医療人材育成プログラムの開発・実装を進めた。 2. 医学科企画室が中心となり、各講座と連携をとりながら、令和8年度からの医学科専門教育における生成AIに関する授業内容の拡充並びに生成AIの活用促進に向けた準備を進めた。具体的には、医学科教員を中心に令和7年度全学共通科目・全学交流科目・教養教育科目(知的理解)「医療におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)の現状と展望」(受講生72名)を開講し、生成AIを含めた医療DXに関する授業提供を開始するとともに、かかる授業を基盤として令和8年度からの専門必修科目「医療AI学」の開講につなげた。
2. 岡山大学×吉備中央町寄付講座「地域医療DX推進講座」や「医療情報化診療支援技術開発講座」と連携を取りながら、医療へのAI活用の開発、応用、啓発を行う。	(6-1) (10-2) (10-3)	
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 医学科における迅速な教学マネジメントを実現することを目的に、「医学科企画室」「医学科IR室」「医療教育センター」「卒後臨床研修センター」の連携をとり、関連委員会に提案を行う。	(2-1) (2-2)	1. 医学科企画室が、医学科IR室と計37回の合同会議を開催し、医学科教学関係委員会における検討議題の企画・提案を行い、カリキュラム委員会(10回・33議題)、教育医長・教育企画委員会委員会(12回・86議題)、基礎・社会医学系教育企画委員会(10回・32議題)、プログラム評価委員会(2回・6議題)、教務委員会委員会(12回・14議題)、医学系・医学科会議(2回・4議題)ににおいて提案並びに情報提供を行った。 2. 文書作成支援(通知文・依頼文・議事録案・説明資料の下書き作成、表現の整理等)また、資料構成の検討支援(会議資料や説明資料の構成案作成等)でAIの利用を開始した。 3. 医学系の女性教員の令和8年3月1日時点の割合は教授5%、准教授10.5%、講師30.8%、助教35.4%、総計で20.8%であり、教授・准教授が「岡山大学の女性教員登用に関する目標と計画」において策定した目標を達成していない。
2. 医学部運営に関するDXを含むデジタル化を開始する。	(15-1)	
3. 若手教員・女性教員の積極的採用を行い、働き方改革を推進し研究・教育・診療の場で活躍しやすい環境を作る。	(11-1)	

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。